

UNIRITA

Magazine

ユニリタマガジン

8-9

2018

新ビジネスコラム

これからの自動化について 真剣に考えてみよう

過去の運用自動化の取り組みを振り返り、反省を活かす
今も昔も変わらないセオリーとは

業務部門向け課題解決ソリューション

働き方改革!

現場の Excel 業務効率化ソリューション

～使い慣れたExcelはそのまま、クラウドサービスで
最大限に効率化・自動化～

製品&サービス最新トピック

UI/UX を大きく向上させた

「LMIS on cloud」 Ver2.6 の紹介

システム管理者の会

感謝の日だけじゃない

夏の後半はセミナー開催でござる

UNIRITAユーザ会

「UNIRITA ユーザ会研究グループ

各地区合同合宿」の開催報告

パートナー様ご紹介 株式会社匠 BusinessPlace

社会とつながるITを!

匠Methodで生み出された、大介護時代の日本を

支援するサービス「M3ケアポータル」

ユニリタ
イメージキャラクター
ホラン千秋



これからの自動化について 真剣に考えてみよう

過去の運用自動化の取り組みを振り返り、反省を活かす
今も昔も変わらないセオリーとは

ユニタの運用自動化に向けた取り組み

ユニタグループ(以下:ユニタG)で初めて運用自動化ツールの販売に着手したのは、1982年にさかのぼります。

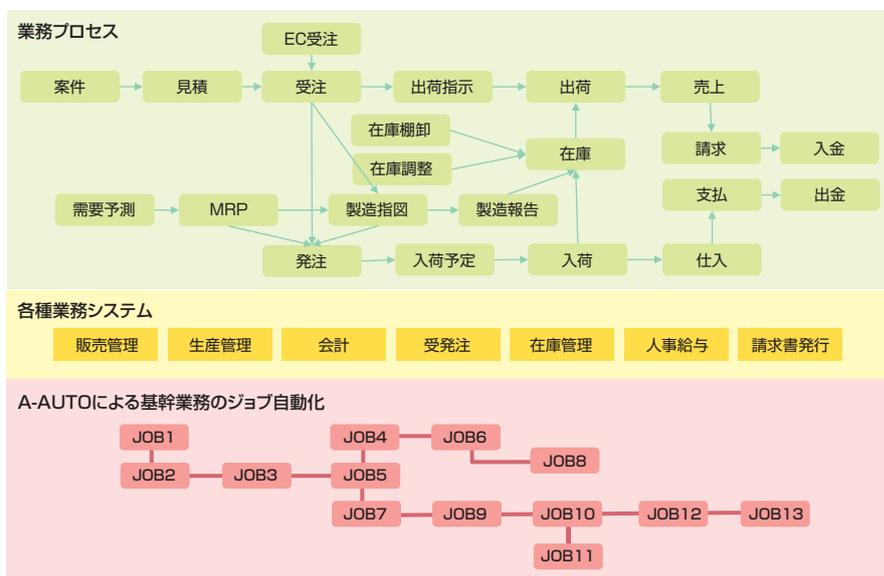
今や当たり前の市場になっていますが、当時は、「運用自動化ツールって、いったいどんな製品なのか?」「どのように使えばいいのか?」「どんな効果が出るのか?」ということがIT業界のもつぱらの話題でした。ユニタGは、その当時から運用自動化に取り組み、ジョブ管理ツール「A-AUTO」の販売は、36年目を迎えます。

右図は、業務プロセス、システムに応じたジョブの自動実行制御イメージです。「A-AUTO」が採用される以前の業務は、担当者が人手で対応し、数字の集計も電卓で対応し、帳票作成も方眼紙に手書きの時代を効率化する取り組みを支援し続けてきました。定型化された作業を自動実行する効果は明確です。

「A-AUTO」発売から36年目を迎えた今、自動化ツールの話題が再燃しています。そうです、働き方改革が叫ばれる中、業務プロセスの自動化を目的としたRPA(Robotic Process Automation)の登場です。RPA自体はこれまでもあった技術を洗練させたものであり、決して新しいものではありません。ポイントは、これまでシステムに向いていた自動化の認識を、人(ヒト)の代行としてソフトウェア(ロボット)に作業させるという考え方の変革です。

これまで運用自動化に取り組んできたユニタGでは、新しいキーワードが生まれ、働き方改革や、生産労働人口減少に対し、どのように業務自動化ツールとして定着させるか、ユニタGとしては過去の運用自動化の支援をおこなってきた経験や知見を活かしてお客様を支援しています。

図:ジョブの自動実行制御イメージ



運用管理製品と運用自動化ツール

現在のIT市場において、運用自動化ツールは、運用管理製品の1ジャンルと位置付けられています。つまり、運用管理という大分類のもとに、小分類としての自動化ツールの市場が存在しているわけです。

ユニタGもジョブスケジューラ(ジョブ管理ツール)からスタートし、お客様の声を反映しながら、後にシステム監視機能や帳票の自動仕訳機能、そしてリリース作業の自動化、総合運用管理(システム監視とアプリケーションタスク、キャパシティ監視の融合)へとラインナップを拡張してきました。前述の通り、自動化ツールは運用管理分野にあって、実は今も進化し続ける最も新しい市場といえます。

ジョブスケジューラと運用自動化ツール

システム運用の自動化として、作業手順書の自動実行を意味する、「RBA (Run Book Automation)」や、ITプロセスの自動化を意味する、「ITPA (IT Process Automation)」といった概念・用語が登場したのは比較的新しく、2000年代も半ばに入ってからのことです。RBA登場以前から運用業務の省力化を目的に広く使われていたジョブスケジューラは、メインフレーム時代から続く長い歴史を持っています。

当時、運用の現場に携わっている担当者であれば、「自動化ツールは、これまで使った経験がないけど、ジョブスケジューラなら日常的に使っているよ」という声が少なくありませんでした。

ジョブスケジューラは、システム運用業務の省力化において、効果が出る有効な手段であると認められていました。今も継続して運用標準化

のツールとして利用されていますが、RPAは、果たしてジョブスケジューラと同様にお客様に定着するのか、ユニリタGは、今後のお客様の取り組みを注視しています。

ジョブスケジューラがなぜ定着したのか

ジョブスケジューラの役目は、「ジョブ(仕事)」として定義される作業を、あらかじめ定めた日時や頻度・間隔で実施することにあります。ある条件でのみジョブを実行したり、逆に定期的に行っているジョブを特定の条件では実行しなかったり、ジョブの異常終了時にリカバリ策を講じたり、といったジョブの例外的な制御も、一般に可能なものとなりました。

他商用の運用自動化ツールの多くも、こうしたジョブスケジューラの機能を持っていますが、さらにハードウェアやソフトウェアの状態を自動取得して構成・設定を変更したり、適切なコマンドを自動実行しシステム環境のリポートを仕掛けたり、といったところまでカバーし、多少なりともインテリジェントな要素を持ったものを、運用自動化ツールと定義することができると考えます。

本来の自動化の狙いを再確認

担当者が手作業で実行する定型化された業務に対し、プロセスの見直しとともに自動化ツールを活用しながら対応させることは、過去から続けてきた改善方法の1つと考えます。ユニリタGは、これまで取り組んだ改善方法の進め方や期待する効果、目的は、これからも変わらないと考えます。

ユニリタGではRPAの取り組みで困っているお客様の声を聞く機会が増えてきました。それは、「手段が目的化している」「効果が見えにくい」「プログラムを担当する人が足りない」「野良ロボットが増え、EUC(End User Computing)の失敗の再来だ」「監査要求に対し、ロボットの動きが正しいか証明できない」「結果、ツール導入になってしまった」といった自動化失敗の声です。

ユニリタGがアドバイスできることは、自動化の本来の狙いを再度お伝えすることです。その狙いに対し、どんな効果を期待するのかを整理するご支援を中心に展開しています。

ジョブスケジューラは、手作業でおこなっていた運用作業について、相次ぐ「ヒューマンエラーを撲滅しよう」「障害を減らし、品質を向上させよう」「業務記録を残す統制要件に追従しよう」「その結果、コスト削減を目指そう」とスタートしました。結果よりも途中の活動プロセスが重要と捉え、運用現場の担当者が真剣に考え取り組んできた集大成と言えます。

RPAにおいては、本質的な目的は変わらないと考えます。業務効率化やコスト削減を狙うあまり、大事な途中のプロセスを無視しては上手く行くものも失敗する結果を招くのも至極当然の結果と言えます。ツール販売のメーカー、ベンダに任せきりでは、業務自動化の定着は難しいのではと考えます。困っているお客様を支援していく中で一番多く見られる誤解は、RPAツールで何でも対応できると勘違いしてしまうケースです。

現在、お客様はITを活用した改善活動による「攻め」「守り」のバランスの見直しに取り掛かっています。これまでの「守り」の業務から「攻め」の業務にシフトをし始めており、今後のデジタルビジネスを加速させるその動きを停止させないための活動をユニリタGが提案します。お客様の立場になり、お客様の課題を解決する提案活動を推進しています。



ユニリタGでは、2018年より、業務の特性に応じてツールの強み・弱みを見極め、活用シーンに応じた対策を講じる支援を展開し始めました。

例えば、RPAの適用ポイントとしてターゲットとしている業務担当者のExcel業務について業務の特性を考慮した結果、RPAではなくETL(Extract・Transform・Load)のテクノロジー利用に切り替え、提案し直した業務改善実績も多くなってきました。

本誌の次頁では「働き方改革!現場のExcel業務効率化ソリューション〜使い慣れたExcelはそのまま、クラウドサービスで最大限に効率化・自動化〜」と題し、ユニリタGが新たに紹介する「Excel業務効率化クラウドサービスソリューション」について紹介しています。ぜひご一読ください。

ユニリタのRPAの取り組み

ユニリタGでは、36年前から運用領域に取り組んできた経験や知見を今こそ活用し提供したいと考えています。まず、お客様に「RPAって、いったいどんな製品なのか?」「どのように使えばいいのか?」「どんな効果が出るのか?」「どのように管理すべきか」、どんな体制を作るべきかを正しく、伝えていこうと考えています。

お客様のこれからの活動をユニリタGがベストパートナーとして、ともに取り組むために必要な経験や知見の蓄積を含め、支援させていただける準備が整いました。既にRPAツールを導入済みながら成果を出せていない、というお客様はもちろん、RPAツールを一切導入されていないお客様でも、ユニリタGの支援だけでかなりの業務負担を減らし、効果創出を狙うことが可能と考えます。

RPAへの取り組みについて、ぜひユニリタGにご相談いただければと思います。次号では、RPAの取り組みに際しての勘所と、ユニリタGの提供するRPAソリューションについて紹介します。

担当者紹介 共著



株式会社
ピーエスピーソリューションズ
代表取締役社長
藤原 達哉



株式会社ユニリタ
営業本部 営業部
ITエンジニアG
宮下 貴行



業務部門向け
課題解決ソリューション

担当者紹介



取締役 常務執行役員
ソリューション事業本部長
秋山 泰

働き方改革！ 現場のExcel業務効率化ソリューション

～使い慣れたExcelはそのまま、クラウドサービスで最大限に効率化・自動化～

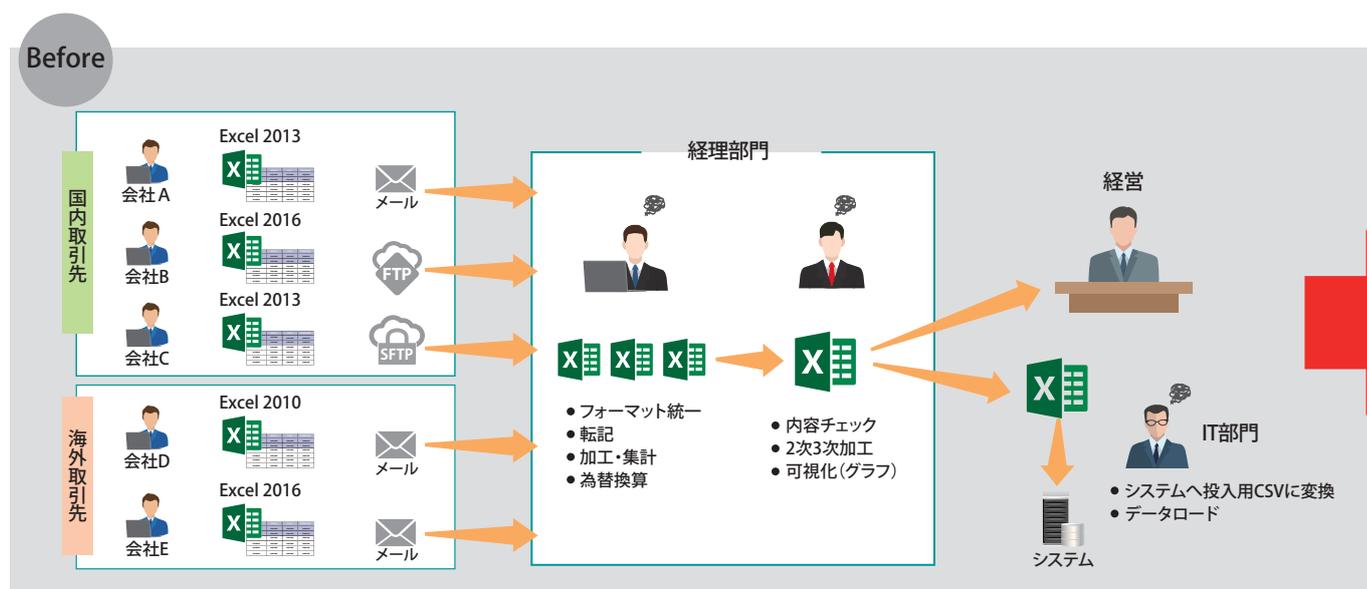
1993年6月25日にMicrosoft Office for Windows（日本語版）が発売されて25年。以来、企業において大小の差はあれど、「Excelを利用した業務」が現場では増え続けています。企業においてはコアビジネスに関わるIT環境は競争力・収益力強化に向け投資が行われ、「統制が効いた利便性・効率化の高い」ものとなっていますが、「現場部門でおこなわれているExcelを使った業務」は、

- Excelを作成した（作業する）本人しか分からない（マクロやオペレーションのブラックボックス化）
- コピペ/編集/集計ミス等での精度問題（品質問題）
- 作った当時と現在では取扱いデータやExcelのシート数が数十倍になった（社内データのビッグデータ化）

など、統制が効いていない、人のチェックが必要で現場の負担が高い表計算ツールとなりつつあります。

この問題に対して、ユニリタでは「Excelブック/シート/セルの値のチェック・コピペ・編集・集計・マージ・分散」といった業務を自動化する機能を備えたソリューションをクラウド上に用意しました。

現場のExcel業務の現状とケーススタディ



業務の流れ

- ① 国内外の取引先（子会社）等から「販売データ」が
 - ・さまざまなバージョンのExcel
 - ・さまざまなレイアウト
 - ・さまざまな通貨
 で日次/週次/月次でFTP/SFTP/HULFT/メールなどで送付
- ② 経理部門がファイルサーバに「送付されたExcel」をコピー
- ③ 共通Excelに【転記】や【為替換算】必要に応じて加工・集計
- ④ 共通Excelの数字のチェック、可視化のための2次加工
- ⑤ 報告
- ⑥ IT部門が連携システムへのロード用のCSVへ変換
- ⑦ システムでデータロード

⇒現場のExcel業務の課題と対応

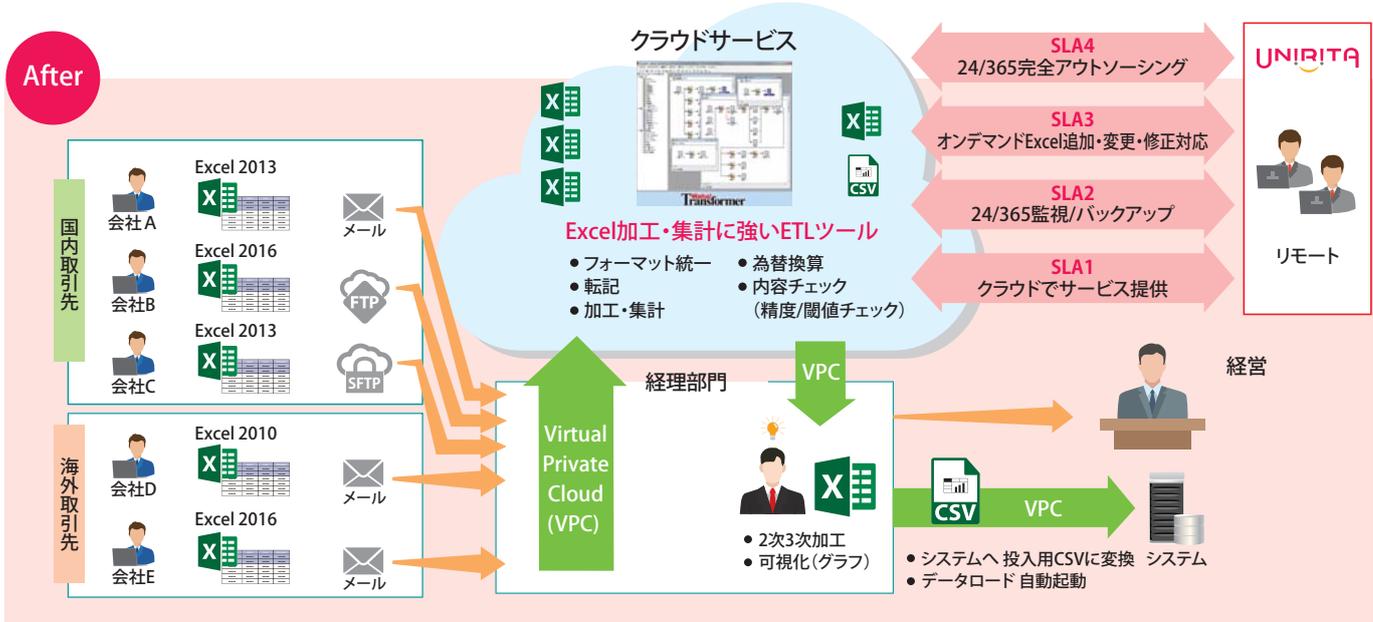
課題			対応	
取引先・グループ・海外子会社とのExcelでのデータ連携業務	対象業務例	メール添付のExcelによる企業間取引	アプローチ	相手(取引先)があり、現行のExcelインターフェースは変更しない
		システム連結決算できない状況における連結決算業務		転記/集計の手作業を排除することで精度・品質を向上させる
		多国間の管理会計(日次/週次/月次決算)		自動データ取得(メール添付から)等でデータの鮮度を担保する
	課題例	転記/集計の作業ミス、為替換算ミス(精度、品質)		Excelのバージョン(2007、2010、2013、2016)に依存しない仕組み
		取引先(子会社)の増減に伴うExcel(レイアウト)増減		取引先(子会社)の増減に伴うExcel(レイアウト)増減はアウトソーシング
Excelのバージョン(2007、2010、2013、2016)間非互換				
社内Excel管理資料	対象業務例	経営報告レポート	アプローチ	転記/集計の手作業を排除する事で精度・品質を向上させる
		部門管理レポート		管理資料の元データ(Excel)の自動収集
		各種報告書		必要があれば、閾値チェックを行う
課題例	人手での作業のため、管理資料の提供スピードが遅い			
	データの鮮度、精度が悪い			
グループ・社内Excelを使った予算編成	対象業務例	予算策定/予算シミュレーション/予算編成	アプローチ	予算編成は慣れ親しんだExcelインターフェースを変更しない
		積み上げ型予算の集計の人手による時間と手間		メールでの提出/未提出の自動検知を行い催促などを自動化
		複数事業部/部門/課の適正数字(閾値)チェックの手間		集計前に予算シートの必要事項及び閾値チェック⇒返送の自動化
課題例	差し戻しを人手でメール等で送付する手間	途中経過の確認ができる仕組み		
社内外Excelでの集計業務	対象業務例	Excelの集計を使った部門業務	アプローチ	Excelで業務を続けるか? OLAP型のツールを採用するか?要検討
		アンケート集計、分類		
		企業内データのビッグデータ(大量)化に伴う限界		
課題例	担当者が不在/異動時のブラックボックス化			

⇒ユニタだからできるクラウドサービスでの「現場のExcel業務効率化」

- ✓ 本サービスは月額料金で利用可能、また自社開発サービスなのでサポートは万全です
- ✓ Excel業務の中で工数の大きなデータの集計・加工、フォーマット統一や内容チェックなどの機能をクラウド上で提供します
- ✓ 利用シーンに合わせた4つのサービスレベル(SLA)を用意し、お客様の要望にあったサービスを利用いただけます
- ✓ クラウドでのサービス提供ですが、他の社内外の複数のシステムとの連携もカスタマイズで実現します

4つのサービスレベル(SLA)

サービスレベル	Excel業務効率化ソリューション内容
SLA4	24時間365日 完全アウトソーシング
SLA3	有人監視、集計条件変更対応
SLA2	監視、バックアップサービス
SLA1	Excel業務のクラウドサービス化



適用後の効果

- 効果1** 経理部門の「Excel加工・集計」業務が無くなり本業へ集中できた
- 効果2** データやメールの発着をトリガーとした「Excel加工・修正の自動化」により、人が監視する必要が無くなり、働き方が変わった
- 効果3** システムサービス利用により、人手を介することにより発生していた「ミスが無くなった」
- 効果4** 最終結果を「IT部門へ連携」してシステムへデータ投入していたが、人手で行っていたので待たせる事もしばしばあったが、「投入までを自動化」されたのでIT部門の働き方も変わった
- 効果5** サービスレベル3で利用しているが、「国内外の取引先が急に増えて」もオンデマンドでユニタが対応してくれるので経理部の評価が上がった

UI/UXを大きく向上させた「LMIS on cloud」Ver2.6の紹介 (2018年12月リリース予定)

「LMIS on cloud」は、サービスデスク機能を中心としたITサービス全体を適切に管理する仕組みを、クラウド上に構築した日本初のサービスです。ITサービスマネジメントのベストプラクティスであるITILに準拠しており、インシデント管理や問題管理を始めとする各ITILプロセスの管理機能を提供しています。Ver2.6では株式会社セールスフォース・ドットコムが提供する「Lightning Experience」に対応し、洗練されたユーザーエクスペリエンス(UX)とユーザーインターフェース(UI)を提供できるようになります。

「Lightning Experience」とは株式会社セールスフォース・ドットコムが提供する、非常に洗練された最新のユーザーエクスペリエンスです。

ユーザーインターフェースが一新され、より直感的、より自然な操作で作業を行うことができ、生産性を高めることが可能となります。本稿では多くの新機能の中から、特に便利になる機能をピックアップして紹介します。

レコードの絞り込みと一覧表示

「LMIS on cloud」ではレコードを任意の条件で絞り込み表示できるビュー機能を提供していますが、このビュー機能の利便性が大きく強化されました。従来はビューの条件を変更する場合は、ビューの設定画面を開いて再定義する必要がありましたが、新しいリストビューでは表示画面上から、そのまま検索条件を即時に作成および変更ができます。またビューの内容に応じたグラフを表示することも可能です。

さらに、リストビューから複数レコードを選択し、アクション(確認、承認など)を一括で実施することができるようになりました。イベントの一括確認など大量にアクションを実施する必要がある場合、レコードを個別に開くことなく効率よく処理することが可能となります。

新たな表示形式である「Kanbanビュー」も追加されました。これは文字通り看板のように、ステータスごとにレコードを一覧で表示します。例えばインシデントがどのステータスに滞留しているかなどが一目でわかるようになります。Kanbanビュー上からドラッグ・アンド・ドロップでレコードを別ステータスに遷移させることも可能です。



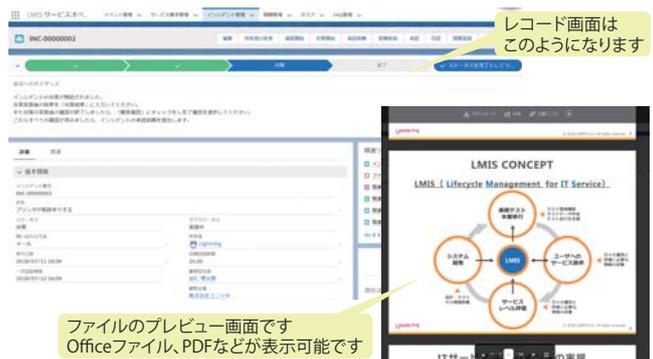
便利になった添付ファイル

添付ファイルがより使いやすくなりました。Ver2.6からは添付されたファイルに対して高精細なファイルプレビューが可能となります。プレビュープレイヤーは全画面モードを搭載しており、添付ファイルをダウンロードすることなく、はっきりと見やすい表示で内容を確認できます。Microsoft Officeファイル、PDFファイル、各種画像ファイルなどさまざまな形式に対応しており、Adobe Flash Playerなどのプラグインは必要ありません。

また、従来は添付されたファイル内の文言を検索できませんでしたが、Ver2.6からは添付されたファイルについて検索画面よりファイル内容を検索ができます。例えば、申請レコードには概要のみが記載され、詳細は添付されたExcelファイルに記載されているような場合でも、素早く探し出すことが可能になります。

さらにファイルのバージョン管理機能も備えています。添付ファイルを更新する場合は、そのまま新しいファイルをアップロードするだけで更新されます。履歴が保存されているので必要に応じて過去バージョンを選択してダウンロードすることも可能です。

その他の機能



検索ボックスでは、入力文字が追加されることに一致すると推測される候補がドロップダウン上に自動的に表示され、素早く目的のレコードを探し出せます。

各プロセスレコード画面では、ステータスごとに入力すべき項目を最大5項目まで画面上部に自動的に表示することで、画面を下にスクロールしなくても入力できるようになります。

他にもさまざまな機能が強化されたVer2.6は2018年12月にリリースの予定です。移行支援プログラムも用意していますので、ぜひ導入をご検討ください。

担当者紹介



ビジネスイノベーション事業本部
ITサービスマネジメント部
副部長
長岸 厚司

感謝の日だけじゃない 夏の後半はセミナー開催でござる

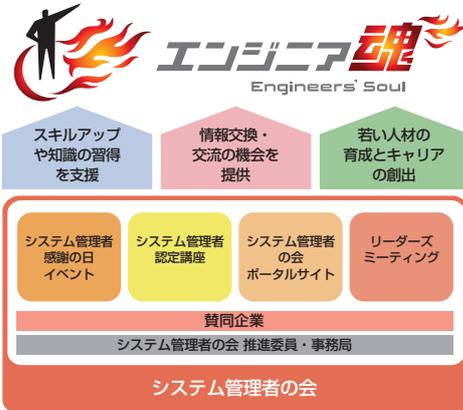
システム管理者の会は、さまざまな人材育成活動を実施しています。

「リーダーズミーティング」は、組織メンバの教育を先導するリーダ層向けに、メンバ育成課題に対する解決への情報共有や議論を行ったり、自らも継続して学習する機会を得ていただいたりすることを目的とするイベントです。また、「アップデートミーティング」は、システム管理者認定講座に合格後のフォローアップとして開催しているイベントです。

今年度は、両イベントを夏の後半に開催します。皆さまの「エンジニア魂」を喚起するアツい夏になりますね。



おつかれ様です。
LINEスタンプでおなじみ、
ジョーホー君でござる。
こいつあ、システム管理者の
夏期講習でござるな。
一堂に会して情報交換しよう。



第13回リーダーズミーティング

8/22
(水)

「変化に強い」エンジニアの育成

～情報システム部門の「できること」を広げるには?～

講師：パナソニックITS株式会社 黒田 光洋氏

(ペンネームで、日経BP社より「ひとり情シス虎の巻」を刊行)

第11回アップデートミーティング

9/7
(金)

AIを活用したシステム管理の自動化設計

～チャットボットで体験するヘルプデスク業務の効率化～

講師：ブレインズコンサルティング株式会社

見る知る学ぶ? → 参加する!

<https://www.sysadmingroup.jp/seminar/>



UNIRITA
ユーザ会

「UNIRITA ユーザ会研究グループ 各地区合同合宿」の開催報告

UNIRITAユーザ会研究グループ合同合宿の開催報告



UNIRITAユーザ会では、各地区の研究グループから参加者を募り、合同合宿を開催しています。合同合宿では、いつもの会合とは違う環境で集中的に研究テーマに関して討議を行うことができます。また、代表・副代表が各グループを支援することで、更に各研究グループの討議を活性化させます。

7月中旬には、東日本地区の情報活用研究部会とシステム運用研究部会、中部地区の合同合宿がそれぞれ開催され、研究テーマの絞り込みや今後の計画を立てました。また、懇親会やレクリエーションなどを通して、グループ間の情報交換や親睦を深めていただきました。



第143回マネジメント研究会開催のお知らせ

平成30年9月7日(金)に、第143回マネジメント研究会を開催します。

今回は、ダイハツ工業株式会社様の「コペンファクトリー、ヒューモビリティワールド」の見学を行います。中でもコペンファクトリーは、お客様に「安心感」と「信頼感」をお届けするため、間近でご覧いただける見学スペースであり、精錬された設備・環境の下、専任スタッフが丹精込めて作り込んでいくCOPENの生産ラインが見学いただけます。コペンファクトリーを通じて、ダイハツ工業様のモノ造りへのこだわりを肌で感じていただけます。講演では、ダイハツ工業様でのITマネジメントにおける現状と課題についてお話しいたします。

UNIRITA ユーザ会会員以外の方からのご参加もお待ちしておりますので、ユーザ会会員の皆様から他社のお知り合いの方もお誘いいただけますようお願いいたします。

詳細はこちら

<http://www.uniritauser.jp/event/mg.html>



パートナー様
ご紹介

社会とつながるITを!

匠Methodで生み出された、大介護時代の日本を支援するサービス
「M3ケアポータル」

2025年問題として知られるように、大介護時代が目前にせまり、日本はまもなく世界でNo.1の超高齢化社会を迎えます。そのような時代を迎えるにあたり、ITの力での革新や課題解決が強く望まれています。

一方、IoTやAI、ブロックチェーンといったキーワードが、デジタルトランスフォーメーションの基盤として大きな注目を集めています。いよいよ、これらのテクノロジーを使ったビジネスが次々に生まれ、介護業界のみならず大きな社会変革を起こしていくことでしょう。

株式会社匠BusinessPlace (以下、当社) が開発し提供している「匠Method」は、デジタル時代に最も適合した手法です。「匠Method」は、個人、企業、部門、プロジェクトの価値をデザインし、活動を描きます。グループワークによりビジョンを共有・合意し、自らの活動の起点とすることで、実際に活動を行う人(個人や社員)のモチベーションを高め、結果として成功率を高めることができます。

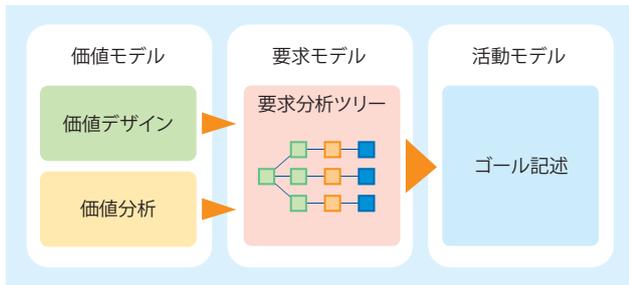


図1「匠Method」によるデザイン

この「匠Method」で生み出されたサービスが「M3ケアポータル」です。ビジョンで掲げた言葉は「明るく介護できる社会をITで作る」。企画段階から介護事業者である株式会社カラーズの代表取締役社長 田尻久美子氏にも参画していただき、介護業界の現状の打破を目指しました。

介護業界は人材不足に悩み、ICT利活用での解決を求められているものの、なかなか進んでいないのが現状です。

「M3ケアポータル」では、サービス品質の向上に着目し、従来の集合研修ではない動画研修を実現しました。モバイルで研修が受けられることにより、時間の有効活用を促進し、残業時間の削減とともにスキルアップによるサービス品質の向上に寄与しています。



図2「M3ケアポータル」の動画研修

しかしながら、さまざまな介護業界特有の課題をクリアするためには1つのシステムでは到底解決できないことがわかりました。

そこで、ユニリタが提供しているクラウドアプリ開発プラットフォーム「Smart Communication Platform (以下、SCP)」の上で開発を行うことを選択しました。「SCP」により、掲げたビジョンを実現する機能が次々に生まれました。複数のシステムと接続することにより、ユーザは1つのシステムですべての情報を手にできるようになります。これは他のサービスでは開発量が多くなり、実現が難しかったことです。

「SCP」のマイクロサービスを使うことで、スピーディかつ低リスクなサービス開発を実現することができます。「M3ケアポータル」でも、認証や決済、動画管理など、「SCP」のマイクロサービスを使用しています。また、SalesforceやTopicRoomとの連携開発も行い、こちらはオプションとして提供しています。今後も容易に機能を追加していくことができます。

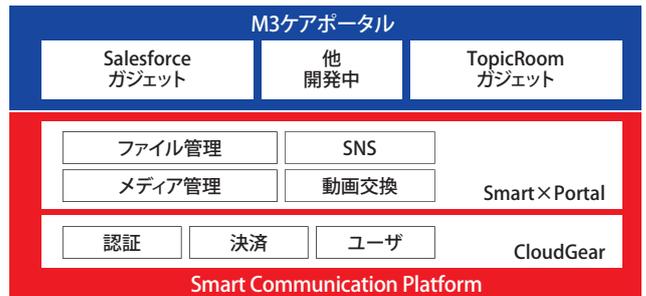


図3「M3ケアポータル」の構成図

これからの時代、既存の資産や業務知識を社内に閉じ込めておくのは非常にもったいないと考えています。テクノロジーの進化に対して、新たな価値観をデザインし、既存のノウハウを適合させていくことでさまざまなビジネスを創出することができます。

そのためには属人的な取り組みではなく、集合天才を生み出す工夫や手法が必要になります。それが「匠Method」であり、当社が支援できることです。

また、その実現の検証には「SCP」が最適だと考えています。実際にシステムを体験することで、創出されたアイデアを検証しながら進めることができます。そのためには開発スピードを高速にする必要があると考えています。

「こんな情報やスキルがある」をぜひ当社にご相談ください。新たな価値のデザインによりビジネスの種に水をやり、「SCP」で体験・検証をすることでお客様の成長をご支援できれば幸いです。

お問合せ先 株式会社匠BusinessPlace 田中豊久
E-mail:tanaka@takumi-businessplace.co.jp

M3ケアポータル

検索



株式会社ユニリタ www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383
名古屋事業所 〒451-0045 名古屋市中区西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(1B48KTビル) TEL 052-561-6808

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ
株式会社ユニ・トランド / 株式会社ユニリタプラス / 株式会社無限